

## 研究部會記事

### 鋼材部會第9回壓延理論分科會

日時：昭和 26—2—3(土)。場所：新大同製鋼株式會社星崎工場（名古屋）。出席者：主査委員遠藤勝次郎君外委員及委員代理等 15 名。提出資料：(1) 絞り壓延による鋼管の變形第 2 報(日本特殊鋼管)。(2) クランクプレス式押出製管機の押出壓力に就て(新扶桑金屬，鋼管)。(3) 絞りロール壓延に於ける肉厚變化に就いて(日本鋼管，川崎技研)。(4) オーバル孔形に於ける擴がりに就いて(新大同製鋼)。(5) 薄板工場に於けるロール壓力測定について(八幡製鐵技研)。(6) 鋼材加工の際の弾性歪について(八幡製鐵技研)。(7) 壓延理論分科會昭和 25 年々次報告(遠藤主査)。  
議事概要：提出者より資料(6)に付，弾性歪と應力との關係を説明し，次いで資料(4)，(2)，(1)，(3)の順序で該資料提出者より夫々説明があり，終りに遠藤主査は昭和 25 年々次本分科會報告に付各委員に意見を求めた上之れを鋼材部會に報告書として提出することとした。

### 第 14 回製鋼部會

日時：昭和 26 年 2 月 9 日(金) 場所：(東京)日本鐵鋼連盟。出席者：委員長吉川晴十君外，委員及同代理，幹事等 38 名。他に耐火煉瓦技術會より 1 名，海事協會より 3 名。提出資料：鋼 145 平爐用取鋼用耐火煉瓦の寸法消費量調査表(連盟)。鋼 146 平爐用取鋼用煉瓦の寸法消費量調査について(連盟)。鋼 147 平爐各種煉瓦，造塊各種煉瓦の圖(神戸製鋼)。鋼 148 鐵鋼用耐火煉瓦調査表(八幡製鐵)。鋼 149 セミキルド厚板鋼製造について(廣畑)。鋼 150 Semikilled 鋼脱酸について(八幡)。鋼 151 優良シートバー製造に関する研究(富士釜石)。鋼 152~168 平爐操業調査表(東都)，(八幡)，(小倉)，(廣畑)，(神鋼)，(川鐵葦合)，(尼鋼)，(日亞)，(新扶桑鋼管)，(同製鋼所)，(中山) (新扶桑和歌山)，(鋼管川崎)，(東京鋼材)，(富士釜石)，日本製鋼，室蘭)，(富士輪西)。鋼 169 高炭素鋼 C 適中率向上について，議事概要：(1) 平爐用造塊用耐火煉瓦の形狀について耐火煉瓦技術會の若林氏の意見開陳があり次いで鋼—146 に付て吉田幹事の説明があつて寸法規格決定のため小委員會を設けて検討し工業技術廳に意見を具申することとした。(2) セミキルド鋼塊製造に於ける脱酸について鋼—150 によつて提出者の説明があつた。(3) 熔接用鋼材の缺陷につき製鋼上より見た検討に關して海事協會の佐藤，常松兩氏から夫々米國及び英國に於ける造船用材についての講演があつた。(4) 薄物用低炭素鋼製造に關する研究では鋼—151 によつてその提出者の説明があり。(5) 平爐操業成績向上に關する研究では各その資料を持ち歸つて之れを検討することにした。尙前記議事(1)に基き 26—3—7 鐵鋼連盟に於て小委員會を開催したのでその審議の結果は資料鋼—170 として第 15 回製鋼部會に提出することとした。

### 鋼材部會第1回分塊分科會

日時：昭和 26—2—13(火)。場所：日本鐵鋼協會會議室。出席者：主査委員内川悟君外委員及委員代理等 21 名。提出資料：(1) 分塊壓延機設備調査表。(2) 均熱爐，加熱爐調査表。(3) 操業成績表。(4) 壓延鋼片寸法表。(5) 分塊工場圖。(6) 均熱爐，加熱爐圖面。資料提出者：八幡製鐵(八幡)，富士製鐵(廣畑)，同(釜石)，同(輪西)，川崎製鐵(葦合)，神戸製鋼，日亞製鋼，新扶桑金屬工業(鋼管)，日本鋼管(川崎)。議事概要：(1) 西村委員は湯川部會委員長代理として本分塊分科會を設置した事由を説明し，富士製鐵技術部副長内川悟君を委員主査に推薦し各委員の承諾を得た。(2) 内川主査委員の司會により上記の各作業所提出資料に基き各その提出者から夫々説明があり，各委員の間に検討が行はれた。(3) 今後の會の運営方針について各委員から研究題目，その他希望が述べられた。次回の議題として(a) 壓延方法の研究。(b) 鋼塊加熱の研究の 2 項目を採用した。

### 鑄物部會第3回鑄型專門委員會

日時：昭和 26 年 2 月 14 日。場所：日本鐵鋼連盟會議室。出席者：委員長 菊池浩介君外委員及同代理並幹事等 21 名。提出資料：(1) 鑄型の壽命調査(富士廣畑)。(2) 鑄型の肉厚と壽命との關係(新扶桑鋼管)。(3) 鑄型黒鉛形狀分類(案)寫眞一回覽(久保田鐵工)。議事概要：(1) 黒鉛形狀の分類については各社で標準と思はれる資料實物を久保田鐵工に送つて同一條件下に研磨して標準寫眞を製作することとする。(2) 鑄型肉厚と壽命との關係について資料提出者の説明があり。(3) 最近の鑄型に對する使用者側の要望として P は大形鑄型で 0.15% 以下，Cr は 0.2%

以下とすること。(4) 最近の原料鉄, コークス其の他に對するメーカーの要望として原料鉄(高爐)の成分は C 3.6以上, Si 1.2~2.2 Mn 0.5~1.0 P 0.25以下, S 0.05以下, Cr 0.15以下, コークスは塊狀 75% 以上たること。

### 鑄物部會第3回ロール専門委員會

1. 日時: 昭和 26 年 2 月 16 日. 2. 場所: 日本鐵鋼連盟會議室. 3. 出席者: 委員長菊池浩介君外委員及同代理並幹事等 27 名. 4. 提出資料: (1) ショアー硬度試験機標準試片試作に就いての報告(大谷重工業羽田). (2) チル深さ判定に就いて(日立製作所若松). (3) 同(大谷重工業羽田). (4) I. 鑄鐵ロールの材質による分類. II. チルドロールの比重(八幡製鐵). (5) 材質によるロール分類案(日本鋼管川崎). (6) 日立チルドロール成績(新扶桑鋼管). (7) 薄板用チルドロール使用成績調査検討資料(日本鋼管鶴見). 5. 議事概要: (1) 資料(1)について大谷重工業委員から説明があり. (2) チルの深さ判定規準について, 日立製作所若松工場, 大谷重工業の資料(2), (3)を夫々の提出者から説明があり, 又新扶桑鋼管から黒鉛分布状態を圖面によつて説明があつた. そして日立で標準寫眞を作りこれに數値を記入して基準とすることにした. (3) チルドロールの比重について, 八幡製鐵は資料(4)の第II項につき説明した. この比重値(各社の分全平均)は 7.35 で川崎製鐵(知多)ではスケルプロールで 7.45 との報告があつた. (4) 材質による鋼材壓延用ロールの分類では, 検討せられた各項を幹部側でとりまとめることにした. (5) カリバーチルドロールについては製造會社よりその製品について説明が行われた. (6) ロールに對する原料鉄の影響及び熔解方式のロール成績に及ぼす影響については, 熔解, 鑄造, 壓延, 成績の各項に關する調査表を作りその様式で調査することにした. (7) 薄板チルドロールの使用成績調査の検討は資料(7)により行はれた. (8) スウェーデン木炭鉄使用成績についてはその使用狀況に關して使用各社側から報告があつた.

### 第2回鉄鐵部會

1. 日時: 昭和 26 年 2 月 23 日(金). 2. 場所: 日本鐵鋼連盟. 3. 出席者: 田中鐵鋼協會會長, 里村部會委員長外委員及委員代理等 34 名. 4. 提出資料: (1) 25 年度第 3・4 半期工場別硫化鐵配當計畫表及 26 年度工場別硫酸滓發生豫想表(資源廳, 鑛山局). (2) 鐵鐵石 26 年度生産計畫(同). (3) Analysis of Domestic Pyrites and Reserves (鐵鋼連盟). (4) 硫化鐵生産, 硫酸滓消費狀況(同). (5) 硫酸滓脱銅に關する調査試験報告(富士廣畑). (6) 硫酸滓脱銅方法一覽表(事業所別)(八幡製鐵). (7) 硫酸滓の脱銅に關する實驗室的試験(日本鋼管川崎). 5. 議事概要: (1) 里村委員長開會の挨拶を述べ, 淺田氏を司會者に推した. (2) 田中鐵鋼協會會長の挨拶があり, (3) 中部氏(別子鑛業)は以前日本鋼管で行つた實驗を説明し將來の見透しについて意見を述べた. (4) 加納技管は資料(1)並に(2)により鐵鐵石並に硫酸滓の生産事情を説明した. (5) 田畑製鐵課長は資源對策と研究に對する補助金政策について述べた. (6) 鐵鋼連盟幹事から資料(3)及び(4)について説明した. (7) 芹澤氏(廣畑)は資料(5)により硫酸滓脱銅實驗の報告を行い(8) 西原教授(京都大學)は廣畑の實驗結果と焙燒との關連について説明した. (9) 和田氏(八幡製鐵)は資料(6)により説明し, (10) 日本鋼管入氏は山積み風化による脱銅の他にメッキ工場の廢酸による方法, 海水による方法を試験していると述べ原田氏よりその試験結果について資料(7)により説明が行われた.

(66 頁より續く)

- |                                 |                   |       |
|---------------------------------|-------------------|-------|
| (8) 鑄物用電氣鉄の性質に及ぼす<br>鋼滓の鹽基度の影響  | 日本電氣冶金技術部長        | 中路武雄君 |
| (9) 高炭素フェロマンガンについて              | 日本鋼管 K.K. 新潟電氣製鐵所 | 松山琢磨君 |
| (10) 砂鐵を原料とする開放爐による<br>低磷鉄製造の研究 | 新報國製鐵課長           | 的場源二君 |

5 月 4 日夜はホテルで晚餐會を開催し役員講師等 30 名出席盛大裡に終了

5 月 5 日開催中の高岡産業博覽會を見學の上解散.